



二十歳を迎えて(意見発表)

本日は、私たち二十歳の新成人のために、このような晴れやかな式典を開いていただき、ありがとうございます。

そして、このように壇上でお話をする機会をいただけたことも、光栄に思います。

これから、20歳を迎える意見発表として、一つ思い出話をさせてください。

まず始めに、20歳を迎えた皆さんにとって、山梨市で過ごした日々はどんな時間だったでしょうか？

学業、部活動に精を出したり、または友達と日が暮れるまで遊び倒したり。写真フォルダの奥の方の写真は、あの頃の決して色あせることのない時間を思い出させてくれます。

私は、小学校まで生まれ育ったところを離れて学区外の中学に入学し、学生生活を送りました。山梨市で過ごした日々は、何ら変わらない普通の学生でありながらとても密度の濃い3年間であったと記憶しています。

そんな宝物のような3年間の中で、一際目立っている記憶であり、出会ってからずっと忘れることのなかった言葉がありました。中学2年生の頃、担任の先生が学活の時間に、人生の教訓として当時の私たちに伝えてくれました。

「夢を追い続けることより、目標を持ち続けること」

似た意味で使われる「夢」と「目標」という言葉ですが、この違いは何でしょう？

担当教科が国語だった担任の先生は、「夢は『医者』や『アイドル』など叶うかわからないゴールで、目標は、『人の命を救う第一線に立つ』や『誰かの生きがいのになる』など努力でいずれは実現できる自分の姿」だと教えてくれました。

皆さんの中にも、歳を重ねるごとに昔から目指していた夢が現実的にかなわないと自分の無力さを嘆いた経験がきっとあるだろうし、これからも、そんな壁に阻まれる経験をするかもしれません。しかし、目標を持ち続ければ、たとえ自分の願った職業につけなかったとしても、別の方法で目標を達成しようと前に進み続けることができます。

Appleの創業者であるスティーブ・ジョブズは、ある大学での卒業スピーチの一説で、「Connecting the dots」、点と点を結ぶことの重要性を説いています。つまり、今まで経験してきたこと一つひとつが点となり、それらはいつかちょっとした拍子に線でつながって、大きな力になる、という意味です。

私たちの20年間で歩んできた、叶わなかった夢へがむしゃらに費やした時間や、いつ活かすのかも分からないまま蓄えてきた知識、そして仲間たちとともに大きな力を生み出して結果を追求した経験、それらすべては無駄にはなりません。これから目標を達成していく中でそれらの点はちょっとしたことで繋がって、必ず私たちの挑戦を後押ししてくれると確信しています。

ちなみに、そんな私の目標は「周りの人を笑顔にすること」です。皆さんもこれを機に自分の目標を再確認して、ぜひお互いにいい刺激を与えあっていきましょう。

結びに、友達、家族、恩師の皆さん、そしてここまで私の成長を支え続けてくれたすべての方々への感謝を申し上げ、20歳の決意の意見発表とさせていただきます。

令和8年1月11日

橋本 勇太

